

総合計画第3次基本計画の「まちづくり指標」の最終総括について

1 趣 旨

- 総合計画第3次基本計画では、施策テーマごとに「まちづくり指標」を定め、それぞれ5年間で達成すべき目標値を設定しており、年度ごとに個々の指標に掲げる目標値の達成状況の検証及び評価を通して、計画の進捗管理を実施してきた。第3次基本計画期間（平成29年度～令和3年度）の終了にあたり、5年間の主な実績を分野別に総括するもの。

2 「まちづくり指標」の令和3年度実績（目標値ベース）※（ ）令和2年度実績

分 野	指標数	達成状況（上段:指標数、下段:分布割合）					備 考
		100%以上	90%以上	80%以上	70%以上	70%未満	
1 地域産業	12	3(4)	0(0)	2(2)	2(0)	5(6)	80%以上 5(6)
		25%(33%)	0%(0%)	17%(17%)	17%(0%)	42%(50%)	42%(50%)
2 歴史・文化	4	1(0)	0(0)	0(2)	0(1)	3(1)	80%以上 1(2)
		25%(0%)	0%(0%)	0%(50%)	0%(25%)	75%(25%)	25%(50%)
3 交流・観光	18	9(7)	1(0)	0(0)	2(2)	6(8)	80%以上 10(7)
		50%(41%)	6%(0%)	0%(0%)	11%(12%)	33%(47%)	56%(41%)
4 子育て・教育	20	6(6)	5(3)	1(4)	2(1)	6(6)	80%以上 12(13)
		30%(30%)	25%(15%)	5%(20%)	10%(5%)	30%(30%)	60%(65%)
5 安全・安心	42	20(18)	5(7)	7(4)	3(5)	7(8)	80%以上 32(29)
		48%(43%)	12%(17%)	17%(10%)	7%(12%)	17%(19%)	76%(69%)
合 計	96	39(35)	11(10)	10(12)	9(9)	27(29)	80%以上 60(57)
		41%(37%)	11%(11%)	10%(13%)	9%(9%)	28%(31%)	63%(60%)

※達成状況（分布割合）は小数点以下を四捨五入しているため、合計が必ずしも100%ではない

【まちづくり指標の達成状況】

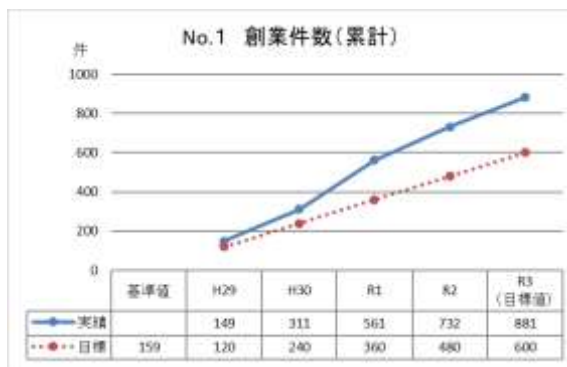
- 第3次基本計画の最終年度となる令和3年度の目標値に対する達成状況は100%以上の指標が39項目（41%）、90%以上が11項目（11%）、80%以上が10項目（10%）となり、80%以上達成した指標が63%となった。
- 平成29年度から令和元年度までは、80%以上を達成した指標の割合が約9割であったのに対し、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた令和2年度と令和3年度は、「歴史・文化」「交流・観光」の指標が著しく落ち込み、約6割となった。
- 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、施設の休館やイベント等の中止などが相次いだため大きく落ち込んだものの、令和3年度については、人数制限やオンラインでの開催など開催方法等の工夫を行い、ウィズコロナに向けた動きもあったことから、「No.38 子育てに関する相談対応件数」や「No.78 防火防災講習会参加者数」など回復の兆しが見られる指標もあった。

3 分野別の評価

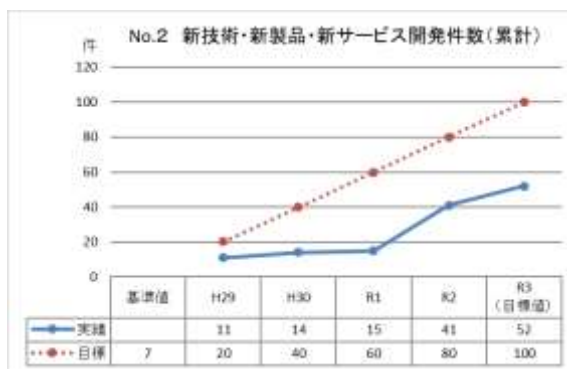
(1) 地域産業

《まちづくり指標の分析と対応》

【産業】



- 令和2年度から創業件数が鈍化したものの、各種創業セミナーや創業者支援事業補助金等を通して、創業機運の醸成を図るとともに、各支援機関との連携による切れ目のない支援により、目標値を達成した。



- 目標値は達成できなかったものの、令和2年度から、コロナ禍に対応する商品の開発意欲の高まりに合わせ、補助制度の見直しや拡充等を行ったことから、新商品開発の支援件数はコロナ禍前より増加している。こうした時勢を捉えた事業者の取り組みを支援できるよう、引き続き、企業訪問等を通じて事業者ニーズの把握に努める。



- 従前より、伝統産業における商品開発や販路開拓に取り組む事業者を積極的に支援しているが、伝統産業の生産額は年々減少し、目標値を達成できなかった。引き続き、各組合及び事業者が、海外ニーズを捉えた商品開発や、アフターコロナを見据えた販路開拓等に取り組めるよう支援する。

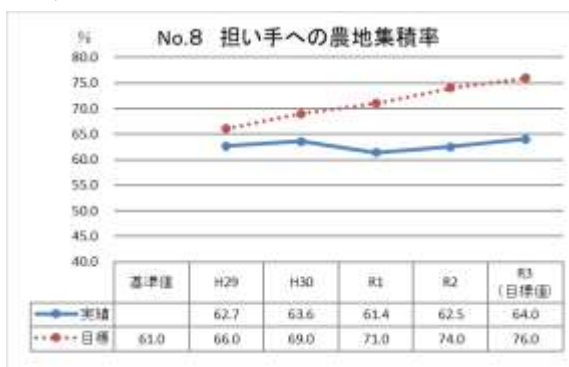


- 企業立地セミナーや企業訪問を行い、本市の立地環境の優位性や支援制度をPRするなど、企業ニーズに応じた企業誘致を積極的に展開し、令和2年度に市内工業団地の全区画の分譲が完了した。市内工業団地の全区画分譲完了に伴い、令和3年度は新たな産業団地の適地調査を実施した。

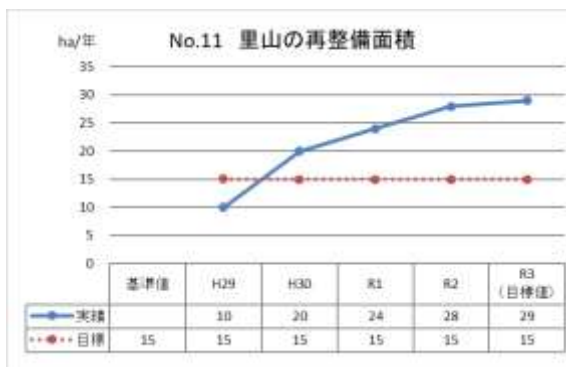


- 例年テクノドームで開催していたが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、規模を縮小し1回のみで開催、令和3年度は、年2回、御旅屋セリオでの小規模開催とした。参加企業や人数を制限して開催したことから、マッチング機会が減少し、目標値は達成できなかったものの、令和2年度から令和3年度にかけて回復の兆しが見られる。今後は、ハローワークと連携し、製造業のほか、人手不足の医療・福祉事業所等へのマッチング事業にも取り組む。

【農林水産業】



- 優良な農地の担い手への集積が進むにつれ、条件不利な農地が残り、集積率は鈍化傾向にあり、目標値を達成できなかった。令和3年度より、狭小・変形田等条件不利な農地の改良費用を支援する事業を開始し、更なる集積推進に努めている。



- 地域住民が主体となった里山の維持管理や利用を推進しており、年々、地域住民による里山の再整備面積は増加し、目標値を達成できた。しかしながら、今後も過疎化・高齢化の進行による活力低下が懸念されることから、引き続き、地域ニーズ等に応じたきめ細やかな事業のPRに努め、市民協働による森づくり活動への参加を支援する取り組みを推進する。

(2) 歴史・文化

《まちづくり指標の分析と対応》

【歴史・文化】



- 保存・修理事業の完了に伴い魅力が向上した勝興寺における工芸展の開催や、高岡駅前からのバス・万葉線フリー切符の販売などに取り組んだが、新型コロナウイルス感染症の影響から、人流が回復していないため、コロナ禍前の数値に戻らなかった。引き続き、来館者の満足度向上を目指し、市内の歴史・文化資産をわかりやすく伝えとともに、地域の宝としての意識醸成を図る。



- 令和元年度までは、目標を達成していたが、令和2年度以降は、修景整備の相談はあったものの、新型コロナウイルス感染症の影響による資材の価格高騰や工期の長期化等の懸念から、見送るケースが増加し、目標値を達成できなかった。しかしながら、令和2年度には、時勢に合わせ建築物の基準や景観形成補助金の見直しを行っており、引き続き修景整備に取り組んでいただけるよう、補助金制度などのPRに努める。



- 万葉集を典拠とする令和への改元を追い風に、令和元年度には入館者数が増大したものの、新型コロナウイルス感染症の影響により、目標値は達成できなかった。しかし、勝興寺の保存修理完了や歴史まちづくり計画（第2期）の始期に合わせて実施した展示室のリニューアル等により、引き続き、学校などの団体客や万葉に興味のある個人客へのPRに取り組む。

(3) 交流・観光

《まちづくり指標の分析と対応》

【観光】



- 新型コロナウイルス感染症の影響を受け目標値を達成できなかったものの、高岡万葉まつり「万葉集全 20 巻朗唱の会」の動画開催に取り組み、そのノウハウを通じ、これからのイベントの在り方や効果的な開催手法等について見直す機会を得た。今後は、高岡の歴史・文化やものづくり産業といった「高岡らしさ」を深く体験できる着地型旅行商品の造成、観光プロモーションに取り組む。



- これまでのインバウンド戦略が実を結び、令和元年度までは順調に増加していたが、令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症の影響により、外国人旅行者が大幅に減少し、宿泊者数の目標値も達成できなかった。今後は、国内外の社会情勢を注視しながら、外国人観光客の誘致に努める。

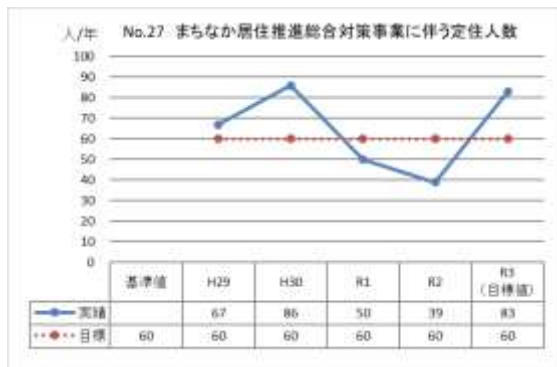
【交流】



- リノベーションまちづくり事業の推進や商業店舗に対する開業支援により、新規開業店舗数は、各年度目標を超え、開業支援事業は中心商店街や観光地周辺の賑わいに効果をもたらしている。



- 一方、中心市街地・観光地周辺の歩行者通行量は、平成30年度までは年次目標を上回っていたものの、中心市街地からの大型店撤退や、新型コロナウイルス感染症の影響による外出の自粛等と相まって、目標値を達成できなかった。引き続き、魅力あるまちづくりに努めるとともに、日常的な通行量を増やすため、まちなか居住やオフィスの誘導、開業支援にも注力していく。



- 市ホームページや広報紙、関係団体へのPRにより、平成29年度から平成30年度までは、増加傾向にあったものの、消費税増税や新型コロナウイルス感染症の影響により、令和元年度と令和2年度は目標を達成できなかった。令和3年度は、まちなかに分譲地が供給されたこと等もあり、まちなか居住推進総合対策事業を利用した方が増加したことから、目標値を達成した。引き続き、まちなか区域の居住促進に努める。



- モータリゼーションの進展や人口減少に加え、新型コロナウイルス感染症の影響による外出自粛や県外との往来制限などによって、公共交通利用者が落ち込んだことから、目標値を達成できなかった。現在は、JRや万葉線、路線バスといった骨格的公共交通の維持に努めながら、これらと地域とを市民協働型地域交通システムでつなぐことで市域全体の利便性を高めようとしている。

(4) 子育て・教育

《まちづくり指標の分析と課題》

【子育て】



- ・ 私立の保育所及び幼稚園から認定こども園への移行が順調に進み、目標値を達成した。教育・保育の一体的提供と保育サービスの充実を図るため、今後も認定こども園への移行を推進していく。



- ・ 病児保育（病児対応型及び病後児対応型）事業実施施設数は、平成 29 年度から令和 3 年度までの 5 年間で 2 施設増加し 5 施設となり、目標値を達成している。今後も働く保護者のニーズに対応した保育サービスの充実に取り組んでいく。



- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、子育てで支援センター等の休館や人数制限をした令和 2 年度を除き、目標を達成できた。令和 3 年度以降、コロナ禍でも安心して利用いただくため、予約制にして施設を開館しており、毎月 400 件前後の相談がある。今後も対応できる体制づくりに取り組むとともに、保護者の様々な相談に対応できるよう、相談対応者一人ひとりのスキル向上を図る。



- ・ 核家族化の進行、女性の就業拡大による共働きなどの家庭環境の変化により、子育て世帯への負担は増加しており、計画期間を通して目標値を達成できなかった。

今後、保護者の働き方や価値観の変化がさらに進むと考えられることから、多様な保育ニーズに応えられるよう、放課後児童クラブやファミリー・サポート・センター等の充実に取り組むとともに、経済的負担軽減を図るため、幼児教育・保育の無償化や子ども医療費助成などに取り組む。

【教育】



- キャリアステージに応じた研修や、ICT活用に関する研修など、社会のニーズに合った研修を企画し、計画期間を通して目標を達成した。外国人児童生徒や不登校児童生徒に対する支援の在り方について学ぶ研修など、今後も教員の資質を高める研修を企画していく。



- 新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、実習や見学、ふるさと地域学習を進めた。作品の制作や見学だけでなく、職人の苦労や素晴らしさを身近に感じ、高岡の伝統工芸を誇りに思う児童生徒が多いことから、計画期間を通して目標を上回った。



- 令和元年度までは増加傾向であったが、令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症の影響により、複数の事業が中止となり目標を達成できなかった。今後は、感染防止対策に努めながら新たな連携事業の策定や事業のPRに取り組む。

(5) 安全・安心

《まちづくり指標の分析と課題》

【地域・高齢者福祉】



- ・ 会員の高齢化により退会者数が増加したことに加え、定年延長等の雇用年齢の拡大や、新型コロナウイルス感染症の影響による活動機会の減少により新規登録者数が減少し、各年度とも目標を達成できなかった。今後は、困りごとのある人を早期に発見して、我が事として支援に加わることのできる地域の相談員を養成する講座を開催し、地域でお互いに助け合える体制づくりに取り組む。



- ・ スーパーやコンビニなどの商店企業や美容院、医療機関等を対象に養成講座を開催した。新型コロナウイルス感染症の影響はあったものの、オンラインでの受講を可能とするなどの工夫を行い、目標値を達成した。今後、若年者への普及啓発を図るとともに、民間事業所等と連携し、認知症になってからでもできる限り住み慣れた地域で暮らし続けていくための障壁を減らす取り組みを推進していく。

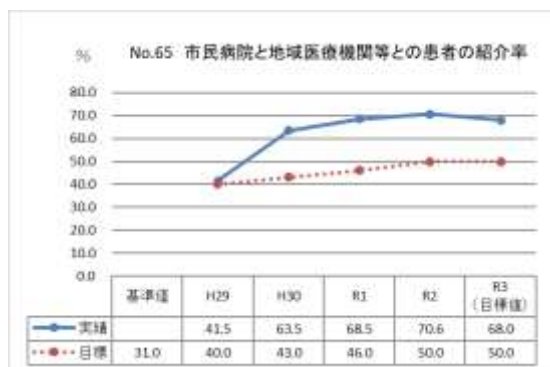


- ・ 令和元年度には、住民主体の通いの場、参加者数とも目標値を上回っていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度はそれぞれ減少した。令和3年度は、人数を分散して開催するなど工夫しながら再開・継続する通いの場も見られたことから、目標値を達成した。

参加者数については、目標値は達成できなかったものの、令和2年度から令和3年度にかけて回復の兆しが見られる。自宅から歩いて行ける身近な会場に通うことで、健康維持や交流機会の増加にもつながることから、引き続き、通いの場の周知に努める。



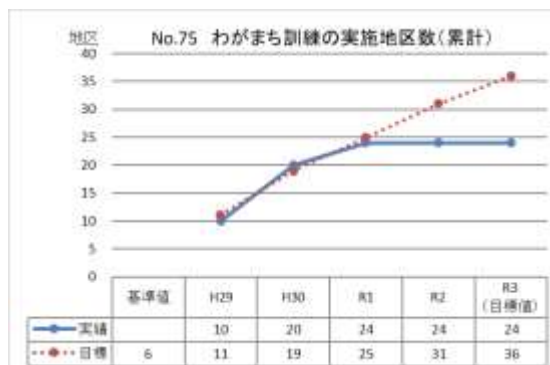
【医療】



- 高岡市民病院では、開業医訪問や医療連携懇話会などを通じて地域医療機関との関係づくりに努め、令和元年度に地域医療支援病院に承認された。計画期間を通じて目標を達成しており、引き続き、地域医療機関との連携強化に取り組むとともに、高岡医療圏唯一の感染症指定医療機関として、新型コロナウイルス感染症への対応にも取り組む。



【防火・防災】

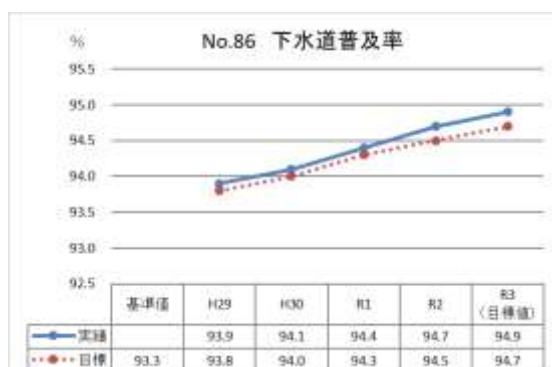
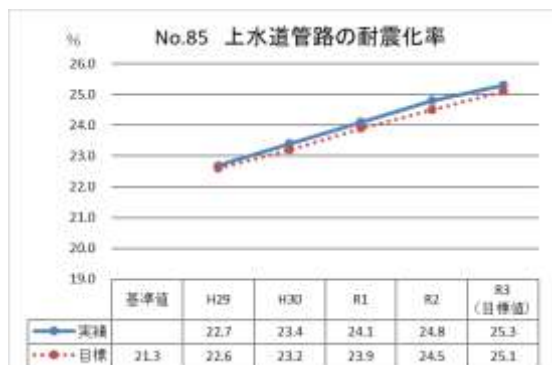


- 令和元年度までは、毎年実施する総合防災訓練を通じ、防災知識の普及・啓発を行うなど、計画に沿って実施してきたが、令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、総合防災訓練の実施を控えたことから、目標値を達成できなかった。コロナ禍ではあるものの、近年多発している自然災害に備え、市民一人ひとりの防災に対する意識の向上を図っていくことが重要であるため、引き続き事業を継続していく。



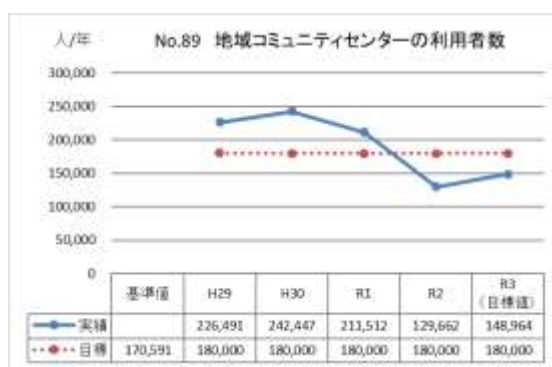
- 令和元年度までは、目標を上回っていたが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、規模を縮小して開催したため、目標を大きく下回った。しかしながら、令和3年度においては、オンライン講習会を取り入れたことで、コロナ禍前の水準に回復した。今後、対面での講習会を基本としつつ、オンライン講習会を併用することで、それぞれのメリットを活かしながら、より多くの市民に対する普及啓発に取り組む。

【上下水道】

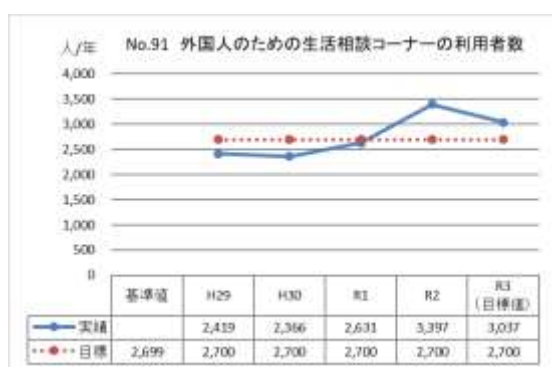


- 上水道管路の耐震化率と下水道普及率については、高岡市上下水道ビジョンに基づき、計画的に取り組みを推進し、目標値を達成した。すべての市民が衛生的な環境の中で快適な暮らしができるよう、今後も老朽管布設替整備や配水管整備、未普及地域整備などの水道施設整備を推進するとともに、公共下水道整備の推進と合併処理浄化槽の設置促進に努める。

【市民が主役の地域づくり・多文化共生】



- 新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度以降は減少し、目標値を達成できなかったが、令和3年度にかけてはわずかに回復の兆しが見られた。引き続き、市内3ヶ所のコミュニティセンターにおいて、利用者に身近な地元関係者が指定管理者となり、施設管理者と担当課のミーティングを行い、サービスの水準の均一化を図ることで、市民に対して親切・丁寧・きめ細やかな運営を行う。



- 令和2年度以降は、特別定額給付金など新型コロナウイルス感染症に関する相談件数が増加したため、目標値を達成した。今後も、相談内容を把握し、ニーズに適切に対応するとともに、外国籍市民が安心して生活できるよう「外国人のための生活相談コーナー」の開設時間や場所を拡充し、継続して多面的に外国籍市民の生活をサポートしていく。

4 第3次基本計画の総括

総合計画第3次基本計画では、「市民創造都市 高岡」をまちの将来像に掲げ、北陸新幹線や高速自動車道などの交流基盤や都市基盤など、これまで築いてきた「都市の強み」を活かし、居住機能や都市機能の適切な誘導を図るコンパクト・アンド・ネットワークのまちづくりを進めるとともに、新元号「令和」を追い風とした「万葉のふるさと高岡」の発信や、瑞龍寺及び勝興寺の保存・修理など、本市がこれまで磨きあげてきた「まちの魅力」をさらに高め、広域交流と観光誘客に取り組んだ。

【地域産業】

各機関との連携による創業支援や販路開拓を図る企業への支援に取り組み、起業・創業を促進した。また、令和元年度に分譲を開始した「I Cパーク高岡」をはじめ、本市の工業団地の全区画の分譲が完了するなど、企業ニーズを捉え、積極的に企業誘致を行った。

【歴史・文化】

国の重要伝統的建造物群保存地区に新たに選定された吉久の町並み（令和2年12月）や勝興寺の保存修理の完了（令和3年3月）、万葉歴史館展示室のリニューアル（令和3年9月）など、歴史・文化資産を住民や関係者が一体となって着実に磨きあげた。

【交流・観光】

本市が誇る歴史・文化資産を活かすとともに、道の駅「雨晴」など新たな観光資源を活用した観光誘客に取り組み、交流人口の拡大を図った。また、まちなかにおいては、民間開発や開業支援、リノベーションまちづくり事業の推進などにより、中心商店街・観光地周辺における開業件数やまちなか居住人口も増加した。

本市を含む県西部6市が一体となった「とやま呉西圏域」において、人口減少・少子高齢化社会に対応するため、子ども医療費助成事業や呉西地区成年後見センターの設置など、圏域全体の生活関連機能サービスの向上につながる事業や、活力ある社会経済を維持するための様々な事業に取り組んできた。

【子育て・教育】

多様な保育ニーズに対応するため、認定こども園への移行や病児保育の充実、幼児教育・保育の無償化など、しごとと子育ての両立ができる環境づくりを推進した。また、校舎や体育館などの耐震化や空調整備を行うとともに、小中一貫教育やICT教育の推進など、未来の高岡を担う子どもたちの育成に取り組んだ。

【安全・安心】

福祉ボランティアや認知症サポーターの養成、地域医療機関との連携強化を図った。また、河川整備や上下水道の整備などに着実に取り組むとともに、出動体制の強化や大規模災害への対応力強化などを図るため、消防の広域化に取り組むなど、市民生活の土台となる環境づくりを進めた。

平成29年度から令和3年度の5年間の計画期間のうち、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための祭・イベントなどの集客事業の中止や外出自粛などによる人流の抑制、またこれに伴う経済活動の停滞などの影響が大きく、地域産業、歴史・文化、交流・観光の分野では多くの指標で目標の達成が困難な状況となった。しかし、コロナ禍においても様々な工夫を凝らすことで、令和2年度から令和3年度にかけ

て回復の兆しのある指標も見られた。また、子育て・教育、安全・安心の分野においては、新型コロナウイルス感染症の影響を受けつつも多くの指標で着実に目標を達成し、全体として第3次基本計画の取り組みは、一定の成果を上げることができたと考える。

今後も人口減少・少子高齢化は避けられず、更なる生産年齢人口の減少や社会・経済活動の縮小などによる地域社会全体の活力低下が懸念される。さらには、令和2年からの新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大の影響などにより、人々の暮らしが大きく変化する中、将来にわたって持続可能なまちづくりを進めていくことが必要である。

総合計画第4次基本計画においては、「次の世代」からも共感を得られるまちづくりを進めていくこととしており、本市がこれまで築いてきた「都市の強み」と磨いてきた「まちの魅力」を活かす「ひとの力」をテーマとしている。人口減少・少子高齢化が進行する中、新たな時代の潮流を取り入れ「変革」に挑戦しながら、全ての政策分野において持続性という視点を持って取り組むことに重点を置き、「持続可能な未来都市 高岡」の実現に向け、市民一人ひとりが個性や能力に応じて何事にも挑戦し、市民が主役のまちづくりを進めていくこととしている。

今後、新型コロナウイルス感染症の影響下における新しい生活様式による意識や働き方などの変化、地方回帰への流れ、デジタル技術等の活用など、アフターコロナを見据えて取り組むべき課題を整理し、アフターコロナ時代のまちづくりを検討していく必要がある。